

## 第4学年1組 音楽科学習指導案

平成19年2月7日(水) 第4校時  
場 所 第2音楽室

### 1 題材名 音をきき合って合わせよう

教材 「きゅう友」「パレードホッホー」「空に雲に」「茶色の小びん」

### 2 題材の目標

- ・声や音の重なりに関心をもって、進んで聴いたり表現したりしようとする。  
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・重なり合う声や音の美しさを感じ取って、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫する。  
(音楽的な感受や表現の工夫)
- ・互いの歌声や楽器の演奏を聴きながら、歌ったり楽器を演奏したりすることができる。  
(表現の技能)
- ・旋律が重なり合う響きのおもしろさや美しさを感じ取りながら聴くことができる。  
(鑑賞の能力)

### 3 題材について

本題材では、声や音の重なり合う響きを味わいながら表現を楽しむことに重点を置いて、学習を展開していく。

鑑賞曲「きゅう友」やパートナーソング「パレードホッホー」では、旋律が重なり合うおもしろさを味わう。これらの経験をもとに、本時の教材「空に雲に」では、更に充実した合唱の響きを感じ取りながら歌う活動を進める。さらに、合奏曲「茶色の小びん」では、楽器の組み合わせを考えたり、各パートの重なり合う響きを感じ取ったりして、表現を工夫していく。

本題材における「声や音の重なり合う響きを楽しむ活動」での学びが、高学年での「音の重なりや和声の響きに重点を置いた活動」へつながるものと考えられる。

### 4 児童について

全体的に落ち着いた授業態度であり、楽しみながら歌ったり楽器を演奏したりしている。

4年生になって、パートナーソングとして「子ども世界」、二部合唱曲として「もみじ」を学習してきた。斉唱では、声量は小さいが、きれいな声を意識して歌う子が多い。しかし、二つの旋律を重ねる段階では、相手の旋律につられまいとして、声を張り上げてしまう傾向が見られる。声が重なり合う響きの美しさを楽しむために、発声に気を付けたり相手の声に耳を傾けたりすることを意識させたい。

### 5 指導について

本時では、「空に雲に」の後半の主旋律に副次的な旋律を重ねて、二部合唱の響きを感じ取る活動を行う。範唱を聴いた後、掲示用楽譜で、「あさの くうき」のような対位的な部分と「おはよう おはよう」の和声的な部分の音の重なり方を、視覚的に確かめながら、副次的な旋律の音程をつかむようにする。さらに、教師と児童、児童と児童などに分かれて、二つの旋律を合わせ、声が重なり合う響きを味わわせたい。その際、美しい響きをつくるために、やわらかな歌声を意識しながら歌わせるようにする。これは、「小学校で身に付けてほしい力」として中学校から提示された「ある程度の頭声的発声」の基礎となるものと考えられる。

### 6 指導計画(10時間配当)

時	学習内容	ねらい	関	感	表	鑑	評価規準
1	二つの旋律が重なり合う響きを感じ取って聴く。	旋律の重なり合うおもしろさを感じ取って聴くことができる。	○			◎	(鑑賞の能力) 二つの旋律が重なり合う響きのおもしろさを感じ取って聴くことができる。

2	アとイの旋律の感じの違いに気付いて、歌い方を工夫する	旋律の感じを生かして、表現を工夫することができる。		◎		○	(感受・工夫) 二つの旋律の特徴を感じ取って、表現を工夫している。
3	アとイの旋律を重ねて歌う。	旋律を重ねる楽しさを味わいながら、歌うことができる。	◎			○	(関心・意欲・態度) 二つの旋律が重なり合う響きを感じ取りながら、楽しく歌うことができる。
4	曲想の違いに気付いて、歌い方を工夫する。	曲想の違いを感じ取って、表現を工夫することができる。		◎		○	(感受・工夫) 前半と後半の曲想の違いを感じ取って、表現を工夫している。
5 (本時)	響きを感じ取りながら、後半を二部合唱する。	声の重なり合う響きを感じ取って、二部合唱をすることができる。	○			◎	(表現) 声の響き合いを感じ取りながら、部分二部合唱をすることができる。
6 ・ 7	主旋律や副旋律を階名唱したり、楽器で演奏したりする。	拍の流れに乗って、主旋律や副旋律を演奏することができる。	◎			◎	(関心・意欲・態度) 意欲的に楽器の演奏に取り組んでいる。 (表現) 主旋律や副旋律を楽器で演奏することができる。
8 ・ 9	グループに分かれて、楽器を選択したり、表現を工夫したりして、合奏をする。	音色や音量などを考えた表現を工夫して、演奏をすることができる。	○	◎		◎	(感受・工夫) よりよい合奏にするために、表現の工夫をしている。 (表現) 自分の担当楽器を演奏することができる。
10	グループごとに発表して、互いの演奏を聴き合う。	互いに楽器の音の響きを聴き合いながら、合奏の楽しさを味わう。	○		○	◎	(鑑賞) 友達の演奏の工夫や良さを見付けながら、聴くことができる。

7 本時の目標 声の重なり合う響きを感じ取りながら、部分二部合唱をすることができる。

8 準備物 掲示用楽譜

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
○既習曲を演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声や音の重なりを意識しながら、演奏するようにさせる。</li> <li>・掲示用の楽譜を提示することにより、視覚的に音の重なり方や音程感をつかみ、正しく歌唱できるようにする。</li> <li>・やわらかい発声に気を付けたり、相手の歌声を意識させたりすることにより、声の重なり合いを感じ取れるようにする。</li> </ul> ☆声の重なり合いに関心をもって、意欲的に歌っているか。 (活動の様子の観察…関心・意欲・態度) ☆声の重なり合う響きを感じ取りながら、歌うことができているか。 (演奏の聴取…表現の技能)
○「空に雲に」の二部合唱の演奏を聴く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">           きれいなひびきで 二部合唱をしよう         </div>	
○二つの旋律の重なり方を見付ける。	
○後半の低音部の練習をする。	
○二つの旋律を合わせて、声の重なり合う響きを感じ取る。	
○本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	